

支える

いわて 震災4年

〈中〉

大船渡市内で行われている中学生対象の学習支援活動が「寺子屋いきいき世代」だ。赤崎町は「寺子屋学びの会」（千葉広樹代表）、末崎町は郵便局期間雇用社員の板坂径子さん(49)を中心としたグループが、それぞれ運営している。

寺子屋いきいき世代 大船渡市

子どもたちに接し、真剣な中にもアットホームな空気に包まれる。赤崎町の赤崎漁村センター会場では、普段は公益財団で復興支援に携わる千葉代表(29)、英語塾を営む吉田久美子さん(66)らが子どもたちに付き添う。千葉代表は「居場所、学習いずれの面でも重要だと思うので、できるだけ長く継続したい」と意欲的だ。末崎町ふるさとセンター会場は、板坂さん

中学生に学びの場所



「寺子屋 学びの会」の千葉広樹代表(左)から指導を受ける赤崎中学生
大船渡市・赤崎漁村センター

ら現地指導員が少人数りしており、地元でボロで切り盛り。板坂さん ランティアをしてくれは「講師の先生などになる人を募集している」お願いしながらやりくと協力を訴える。

学習支援は12年、ボも来るので楽しい」とランティア団体「ふん言えば、同3年志田優ばろう東日本支援プロジェクト」の活動として、ほぼ切替えの合言葉のも 霧困気がとてもいい」と、赤崎町と末崎町でと、お気に入りの場所スタート。東京、仙台のようだ。開設2年目ぐらいまでは、一日中寺子屋会元が一体で、大震災のため学習環境の整わな場でも、夏・冬休みからの続きで、東京時期などには、遠方からボランティアの人たちがいき少額短期保険はちがやってきてサポートしている。3年間で計340万円を寄付。全社員が毎場に通う赤崎中1年3年、学習参加の中学生浦衣菜さんは「仮設住宅は狭くて勉強する場など交流も深めてい所がない。ここは友達